奈文研ニュース

No.63 Dec.2016

NABUNKEN NEWS

NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE

独立行政法人　国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市佐紀町247番1
https://www.nabunken.go.jp

2016年熊本地震により被災した文化財のレスキューと装飾古墳の被害調査

熊本県において4月14日に発生した前震（M6.5）と4月16日に発生した本震（M7.0）により、多くの建造物が倒壊し、道路や橋梁、鉄道等も破壊されました。文化財の被災も甚大で、熊本県民の誇りであり、観光のシンボルとなっている熊本城と阿蘇神社の悲惨な状況は象徴的に詳しく報道されています。6月27日におこなわれた熊本県の報告によると、国指定・国登録文化財の被災件数が301件中96件、県指定文化財が384件中54件となっています。実際には、これに市町村指定の文化財、未指定の文化財も被災していますので、膨大な量の文化財が被災しているものと思われます。

この熊本地震による文化財被害の特徴としては、まず、建造物の倒壊や破損があげられます。文化財建造物の中には、美術工芸品や文書等の史料も存在しています。倒壊した建造物の中に散乱している美術工芸品や史料をレスキューするには、多くの危険と困難をともなっています。

文化庁はこの熊本地震により被災した文化財を救援するために、熊本地震被災文化財建造物復旧支援事業（文化財ドクター）と熊本県被災文化財救援事業（文化財レスキュー）を6月20日より実施しています。文化財ドクターは被災した文化財建造物について、被災状況調査を実施し、所有者又は管理団体からの要請に応じた応急措置および復旧に向けた技術的支援等をおこなう専門家を派遣するものです。いっぽう、文化財レスキューは緊急に保全措置を必要とする動産文化財の調査・救出等をおこなうものです。文化財レスキュー事業は、九州国立博物館内に九州救援対策本部を、熊本県博物館ネットワークセンターに現地事務所を設置して進められています。

奈良文化財研究所では、この文化財レスキューに人員を派遣するとともに、文化財防災ネットワーク推進事業（文化庁委託事業）の一環として、熊本県において「水損紙資料の応急処置」という研修を企画実施しました。公費解体がなかなか進まない状況で文化財レスキューは長期化することも懸念されており、奈文研では引き続き文化財レスキュー事業に参画していきます。

さらに、今回の震災で被災したもので深刻な状況にあるのが装飾古墳をはじめとした古墳および横穴墓の被害です。奈文研では、熊本県と文化庁からの要請で、熊本県内の装飾古墳の被害状況調査をおこなってきました。特に、井寺古墳と釜尾古墳は羨道の天井石の崩落により、羨道入口に設置された扉を開けることができなくなっており、石室や羨道の損傷状況や装飾の被害等を確認することができない状況でした。奈文研では、ファイバースコープと小型のモニタカメラを用いた羨道および石室内の観察と撮影により、その被害状況をある程度把握し、報告することができました。今後は、羨道や石室が受けている損傷の構造的な問題、石室や羨道の装飾の保存環境の問題等に、古墳の保存に関する専門的な立場から取り組んでいくことにしています。

2016年熊本地震により被災した文化財の復興はまだまだ前途多難です。皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

（埋蔵文化財センター　高妻 洋成）

熊本大神宮の被災後の様子